

平成22年度 自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書

柴田町立槻木中学校

1 評価期間 平成22年12月～平成23年2月

2 学校関係者評価委員

卯花 正弘 (委員長), 遠藤 稔 (副委員長)
大沼アツコ, 加藤 盛, 松田ゆう子, 高橋 健, 加藤 幸恵
八島 充夫, 佐藤 正義, 菅野 昭彦, 中 秀司

3 評価規準

- 妥当である。 (適切な取組で、次年度へ向けての取組も妥当である)
- 妥当でない。 (取組が不十分で、次年度へ向けての改善策も妥当でない。)
- 判断することができない。

※自己評価の数値の算出方法

教職員の自己評価で、A：大変良い・・・10点、B：良い・・・5点、C：課題がある・・・-5点、D：かなり課題がある・・・-10点とし、各項目の合計点数を教職員数で割った値。

4 評価項目

1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進

	自己評価	関係者評価
(1) 学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	5. 2	妥当である
(2) 学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。	6. 1	妥当である
(3) 保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。	2. 3	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(1) 前年度の学校関係者評価等をもとに、『教育実践マニフェスト』を作成し保護者・地域住民に公表した。	・教育活動全般において、保護者や地域の教育力の活用については課題がある。	
(2) 学校だよりやメール、学年・学級通信等を通して学校の様子を積極的に知らせた。また、授業参観、学校行事等で保護者の参加する機会を増やした。広報の手立てを工夫し学校への関心を高めたい。		
(3) 職場体験では地域の企業等の協力をいただいて活動し、生徒達の職業への意識を高めた。教育活動全般で、保護者・地域の教育力を活用していく手立てを図っていききたい。		

2. 「学力向上」と新学習指導要領の趣旨の徹底

	自己評価	関係者評価
(4) 「学力向上」を目指して、指導方法の工夫・改善を図るとともに、個性を生かした楽しく分かる授業の実践に努めている。	7. 3	妥当である
(5) 学習意欲の向上と生活習慣・学習習慣を改善し、主体的な学習を促して基礎学力の向上に努めている。	4. 8	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	

(4) 学力向上サポートプログラム事業を通して教師の指導力の向上を図りながら、一丸となって学力の向上に積極的に取り組むことができた。今後も、教科の連携により指導方法の工夫と改善を図りたい。	・先生方の自己評価が厳しいと思われる。
(5) 「家庭学習」の定着と充実を図るために、学年の連携を図ってきた。今後は、家庭の協力を得られるように努めたい。	

3. 豊かな人間性を育む道德教育の充実

	自己評価	関係者評価
(6) 「道德の時間」の実施時数の確保と指導方法の工夫改善を行い、道徳的実践力を高めるとともに、教育活動全体を通じた道徳的実践意欲の向上に努めている。	3. 9	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見
(6) 学年・学級の実態に応じた資料を工夫・活用し指導に力を入れてきた。教育活動全体で道徳的実践意欲を高めていきたい。	・授業以外にも常日頃から指導していると思われる。広い目で見るともう少し高い自己評価でも良いと思われる。	

4. 生命の尊重と社会性の育成を図る生徒指導の充実

	自己評価	関係者評価
(7) 「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない学校づくりに努めている。	5. 0	妥当である
(8) 児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し、家庭と連携して基本的な生活習慣の育成に努めている。	4. 3	妥当である
(9) 児童生徒に自己の特性を、理解させるとともに能力・適性や興味・関心等に基づいて将来の生き方を考えさせるキャリア教育の充実に努めている。	3. 0	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見
(7) いじめ防止に取り組むとともに別室登校や不登校傾向の生徒に対して、情報交換を密にして指導にあたってきた。長期の不登校はなくなった。人間関係づくりの指導に力を入れていきたい。	・全体的な生徒の様子を見ると、自己評価は低いと思われる。 ・日頃の生活の中で、「あいさつや返事ができるかできないか」、「良好な人間関係づくりや協力ができるか」などが大切である。このことをふまえながらキャリア教育の充実に努めてほしい。	
(8) 基本的な生活習慣の育成を家庭と連携して取り組む。		
(9) 学活や総合的な学習の時間では、職場体験や上級学校調べなど、将来を見据えた上での進路指導を進めてきた。生徒の能力や適性に気づかせ、生き方を教えながら様々な体験活動に取り組ませたい。		

5. 安全・安心な教育環境の整備・促進

	自己評価	関係者評価
(10) 児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や「防犯教室」などを実施して児童生徒の安全確保に努めている。	3. 6	妥当でない
(11) 地震災害等を想定した「避難訓練」「防災教室」を実施している。	4. 3	妥当である
(12) 「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している。	4. 5	妥当である
(13) 生涯体育・スポーツの視点に立ち、健康でたくましい児童生徒の育成に努めている。	4. 5	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見

(10) 1年で「交通安全教室」、2年で「携帯安全教室」、「救命救急法」、3年で「薬物乱用防止教室」を実施し安全に対する意識を高めてきた。このことについて保護者にも啓発を図っていききたい。	・実際実施していると思われるので、自己評価の結果は厳しいと思う。「防犯教室」という文言にとらわれすぎである。
(11) 避難訓練・防災訓練では外部機関の協力を得ながら実施してきた。次年度は、工夫してより実践的な訓練を実施したい。	
(12) 登下校時は、地域のボランティア支援の方々やPTAによる校外巡視活動など協力をいただき安全確保に努めている。今後も継続してお願いしていきたい。	
(13) 部活動を通して生徒の健康な心と体を育てる。	

6. 特別支援教育の充実

	自己評価	関係者評価
(14) 「特別支援コーディネーター」を中心に、児童生徒一人一人のニーズに応じた指導を行っている。	4. 1	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(14) 生徒一人一人の実態を調査し対応を話し合った。一丸となって生徒のニーズに応えようと指導に取り組んだ。コーディネーターを中心に協力し合い、よりよい指導の在り方を探っていききたい。	・一人一人の生徒へのはたらきかけが見られる。	

7. 国際理解教育の促進

	自己評価	関係者評価
(15) 自国文化に対する理解を深めるとともに、他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている。	0. 2	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(15) ALTを通して日本と外国の文化について学んだ。ALT以外に年1回程度全校生参加の活動を検討していく。	・学校の教育活動の範囲内では限界がある。以前のように、アメリカのシアトルや中国の丹陽との交流など町全体での協力や取り組みが必要である。	

8. 情報教育の推進及び学校図書館の充実

	自己評価	関係者評価
(16) 高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている。	2. 7	妥当である
(17) 学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	4. 8	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(16) コンピュータの活用は、主に技術科・総合的な学習の時間で行った。コンピュータに関するルールの指導にも力を入れていく。	・コンピュータを活用できる場所が限られている。校舎改築後は教室へもLANをつなぐなどの環境の充実に期待したい。	
(17) 図書館だよりを毎月発行し、図書の利用について啓発を図ってきた。今後も、図書室の利用の充実に努めていきたい。		

9. 教職員の資質及び指導力の充実・向上

	自己評価	関係者評価
(18) 教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに、学校課題の解決を図る校内研究・校内研修を積極的に推進している。	6. 6	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	

(18) 学力向上サポートプログラム事業を核とした校内研修を行い、教職員の指導力の向上と生徒の学力の向上を目指して積極的に取り組んだ。教員の研修意欲が高まりお互いの指導について活発に話し合った。次年度も、今年度の成果を生かし校内研修を充実させていきたい。	・教職員の向上への取り組みが見られている。
---	-----------------------

10. その他		自己評価	関係者評価
(19)	子供たちと一緒に話をしたり、遊んだり、教育相談をするなどの機会を多くつくっている。	4. 8	妥当である
(20)	子供たちは学校へ来るのを楽しみにしている。	4. 8	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(19)	多くの教員が、生徒とともに過ごす時間を充分にとれなかったと考えているが、一丸となって生徒に接する努力をしながら指導にあたった。	・改善への取組が見られている。	
(20)	生徒が学校へ来ることを楽しみにしている割合は多い。生徒にとって安心して生き生きと過ごすことができる学校づくりに努めたい。		

11. 教育目標について		自己評価	関係者評価
(21)	教育目標「心豊で、たくましく、生き生きと学ぶ生徒の育成」が、学校の教育活動において具現化されている。	4. 1	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(21)	各学年とも全体的によりよい変容がみられ少しずつ成長している。今後も課題を明らかにして、一丸となって教育目標を具現化に取り組んでいきたい。	・次年度の取り組みに期待したい。	

◆その他:学校関係者による主な意見

・日頃から学校の現状に合った取り組みを先生方は一生懸命やっていると思われる。
--